

## 第7回通常総会資料

新緑の候、会員の皆様にはますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

さて、新型コロナウイルス感染の拡大が一旦落ち着き、非常事態宣言が解除されましたがまだまだ予断を許さない状況です。

第7回通常総会を6月第1週の土曜日を予定していましたが、中止とさせていただきます。議案につきましては、会員の皆様からの書面評決にて議決することとしました。皆様には総会資料を確認いただき、書面評決書の提出をお願い致します。

富山県農村医学研究会

# 書 面 評 決 書

令和2年度富山県農村医学研究会第7回通常総会の議事について  
下記の通り書面評決します。

議 事	記	承認の有無
第1号議案 平成31年度事業報告および収支決算報告書	承認する	承認しない
第2号議案 令和2年度事業計画案および収支予算書案	承認する	承認しない

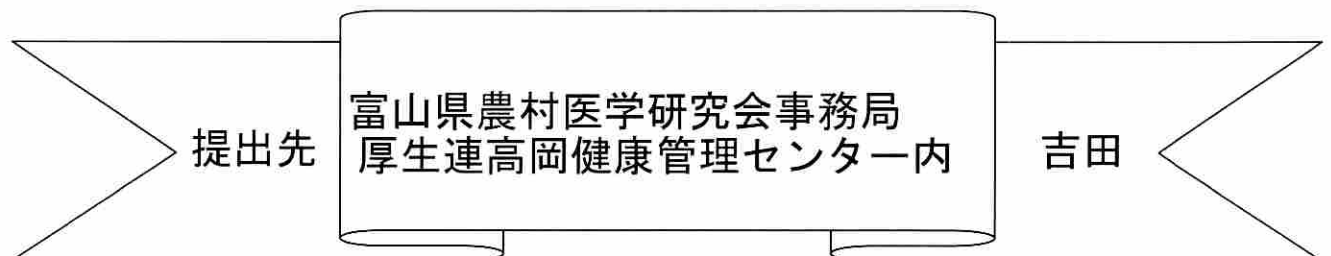
令和2年 月 日

所属

氏名

印

富山県農村医学研究会会長 殿



# 平成31年度事業報告

## I. 事業の概要

平成31年度の事業終了に当たり、事業の概況について報告致します。

本会では豊かな農業・農村を維持する農業者の健康づくりについて様々な調査研究を行ってまいりました。

特に、本会設立以来、全国に先駆けて農作業事故の実態調査を続け、農水省が実施する「農作業事故の対面調査」を主導的に推進してまいりました。また、高齢者が農作業に携わる事による健康保持増進効果に関する調査も引き続き実施してまいりました。

これらの研究成果は、平成31年10月に北海道帯広で開催された第68回日本農村医学会、並びに令和02年3月開催の第37回富山県農村医学研究及び健康管理活動発表集会(新型コロナウイルス感染拡大で中止)など、各種学会で発表してきました。

以上、本会の活動は、医療関係者はもとより行政、農協および農村の保健と医療に関心のあるあらゆる方々の協力により実施されてきました。次年度も引き続き事業計画に基づき、さらに研究調査に鋭意取り組んでいきたいと思っておりますので、会員各位の絶大なるご協力をお願いいたします。

## II. 主な事業項目の概要

### 1. 研究調査活動

#### (1). 農業災害事故調査

##### 目 的

昭和45年から実施している、農業機械災害事故および農業機械以外の農作業災害事故調査について継続して実施した。

##### 調査方法

例年通り、県内の関連する医療機関約800カ所に対して臨床例の有無について照会し農作業事故の臨床例の収集を行った。なお、40年以上続いた全共連富山県本部の生命・傷害共済証書より事案の抽出は、平成24年度以降今年度も事案収集がでず、過去の連続調査の質とここ5年間では例数や内容が大きく変わっている。今年度は全共連で検索事項など検討することになり、2018,2019年は提供されませんでした。

##### 調査結果と考察

医療機関より収集された臨床例は農機23例、農機外14例、計37例であった。富山県農業災害事故調査報告書は、当会のホームページに掲載してある。

<http://www.kouseiren-ta.or.jp/pagedata/n-tnouson/index.html>

#### (2). 農業機械の騒音に関する調査研究

##### 目 的

昨年度に引き続き、農業機械の騒音について、作業時の騒音測定を行い、農業者の騒音性難聴の発生を防ぐことを目的とする。

##### 調査方法

各種農業機械の作業時の騒音について、特に騒音性難聴を惹起するとされる4000Hzの騒音について1/3オクターブ分析ができる騒音計を用いて測定した。

##### 調査結果の分析と発表

農業機械の騒音は、機械そのものの騒音について無響音室などにおいて作業時以外での測定は多くなされているが、実際の作業時の騒音測定はほとんど行われていない。

特に、小型のエンジンを持つ、前年に引き続き刈払機や動力散布機等の騒音を測定した。前年報告と同様、小型エンジンを用いている農機の4000Hz前後の騒音性難聴を惹起する周波数帯の騒音レベルが高く、

防護対策の徹底が必要と考えられた。

### (3) 高齢者の「認知－判断－操作」の機能評価

#### 目 的

高齢者が農業機械を操作する際に、危険を「認知」して、どのような操作をすべきか「判断」して、実際に判断した通りに「操作」することが必要である。この「認知－判断－操作」の一連の流れが滞ると、事故につながりかねない。この機能評価に前年に開発した「モグラ叩き」ソフトを用い、各年齢毎の標準値を求め、実際の作業者がどの程度の水準出来るかの指標となるよう、標準化のための調査を行った。なお、昨年度同様の調査を行っているが、例数をさらに増やし、年齢標準線の一般化をめざした。

#### 方 法

平成29年度において、「モグラ叩きゲーム」を点数化するソフトを確定した。

+1点、+2点、-1点、-2点の4種類のモグラのキャラクターが次々と出現し、時間は1分間である。各種会合参加者に「モグラ叩き」を点数化各年代別に一定の人数の被験者にて、「モグラ叩き」を実施し、併せて農作業時の事故経験、ヒヤリハットなどをアンケート調査し、モグラ叩きの点数と、事故との関連について検討した。調査は3回テストを行い、その最高点をその人の点数とした。

対象は各種イベント参加者および、厚生連高岡病院健康管理センターの日帰り人間ドック受診者のうち希望者について実施した。

#### 調査結果の分析と発表

約1,221人に実施したが、3回行った者は1,189人であり、昨年度の有効被験者数382人を加え、1,571人のモグラ叩きの結果とアンケートおよび。

点数は、年齢が高くなるにつれ得点が低下した。特に、得点・減点の打点数にたいして、減点のモグラを叩いた割合、間違い打点率は、20歳代に比較し、70歳代以降間違い率が急激に高くなり、また、1打点に罹る時間も70歳代以降が特に、多くの時間を要していた。

なお、生活機能との関係で、特に高齢者では、生活機能が良の群に比較し不良の群で間違い率が高かった。また、トラクターの運転について、「危険と感ずる」、「ヒヤリハット体験あり」等の群で、間違い率が有意に高かった。

以上のことから、このモグラ叩きを用いて、高齢者のトラクター等の適否や注意喚起のツールとして採用出来る可能性が考えられた。

基準値の作成、判定のコメントなどを作成し、実際の現場で利用できるツールを完成した。

### (4) 研究助成

酒井理事の富山県農村における家族の変容及び『いえ』の継承に関する研究は、水稻を基幹とする富山県の農業は、機械化による省力化で兼業化を可能にしているが、農業の高齢化や跡継ぎの問題は深刻で大変意義のある研究で、これに対して助成金を50万円とした。研究期間はH30、H31年度の2年間で各年度25万円とした。

年度ごとに、報告を受ける。H31年度の報告は、会誌第38巻に掲載した。

## 2. 各種研究会参加

### (1) 第68回日本農村医学会学術総会

- ・開催日 令和元年10月17日(木)～18日(金)
- ・開催場所 とかちプラザ、ホテル日航ノースランド帯広
- ・会員発表 6題

「もぐら叩き」を用いての「認知⇒判断⇒操作」機能評価による農業機械操作の可否について

－第2報－ 富山県農村医学研究所 大浦栄次他

- ① 平成30年豪雪(富山県)における人的被害について  
富山県農村医学研究会 吉田 稔
- ② イタリアにおける花粉症研究  
富山県農村医学研究所 寺西秀豊
- ③ 一般成人における尿中アルキルリン酸と生活環境要因との関連

富山県衛生研究所

中崎美峰子

- ④ 行動変容ステージにおける実効期と維持期の生活習慣病関連健診データと生活習慣に関する検討

厚生連高岡健康管理センター

小川美咲

- ⑤ 肝のう胞に対する腹腔鏡下天蓋切除術の経験

厚生連高岡病院

加藤洋介

- ⑥ 小児の気道異物に対する保護者の意識調査

厚生連高岡病院

樋口 収

(2) 第37回富山県農村医学研究及び健康管理活動発表集会

・開催日 令和02年3月7日(土)

・開催場所 厚生連高岡病院地域医療研修センター(1)

新型コロナウイルス感染拡大で中止

・会員発表 5題

- ① 高齢者の骨密度の維持・増進における「かかと落とし」の効果について

厚生連高岡健康管理センター

小川美咲ほか

- ② 特定保健指導を過去2回以上受けた対象者の主観的健康統制感及び事故効力感と保健指導の効果

厚生連滑川健康管理センター

島田彩可

- ③ 気温温暖化とスギ花粉飛散開始日との関連性

富山県農村医学研究所

寺西秀豊

- ④ 建築組合の選別聴力検査の有所見率について

富山県農村医学研究会

吉田 稔

- ⑤ 「モグラたたき」により「認知⇒判断⇒操作」機能の評価—第3報—

富山県農村医学研究会

大浦栄次ほか

### Ⅲ. 主な行事（平成31年4月1日～令和02年3月31日）

年.月.日	主 な 行 事	
	事 項	場 所
31.4.25	役員会	厚生連本所応接室
R1.6.1	第6回総会	厚生連高岡病院地域医療研修センター1
R1.6.1	第37巻会誌発刊	
R1.7.11	役員会	厚生連本所応接室
R1.10.17 ～18	第68回日本農村医学会総会	北海道帯広（会員発表7題）
R1.10.10	富山県農業災害事故実態調査（前期）	県内医療機関
R1.12.25	役員会	厚生連本所応接室
R2.2.19	富山県農業災害事故実態調査（後期）	県内医療機関
R2.3.7	第37回富山県農村医学研究及び健康管理活動発表集会 新型コロナウイルス感染拡大で中止	厚生連高岡病院地域医療研修センター1 （会員発表5題）

### Ⅳ. 総会

#### 第6回総会

	総 会 日 現 在 会 員 数	308名
出席会員 数	実 際 に 出 席 し た 会 員 数	31名
	委 任 状 数	234名
	計	265名
重要なる議事及び議決事項 第1号議案 平成30年度事業報告・収支決算書承認について 原案承認 第2号議案 平成31年度事業計画案・収支予算書案承認について 原案承認 ※議事終了後、講演会を開催 特別講演（公開）講師 農事組合法人「おくがの村」 代表理事組合長 糸賀 盛人 「集落と農業を次の世代につなぐ」 ～津和野町「（農）おくがの村」のあゆみ～		

# 平成31年度収支決算書

(自平成31年04月1日～令和02年03月31日)

## 収入の部

(単位：円)

項目	予算額	決算額	差引額	備考
会費収入	306,000	308,000	2,000	
会費	306,000	308,000	2,000	306人×1,000円
特別負担金	1,470,000	1,470,000	0	
特別負担金	870,000	870,000	0	870,000円(厚生連)
調査研究協力費	600,000	600,000	0	厚生連より繰入
雑収入	100	4	-96	
雑収入	100	4	-96	利息など
前期繰越金	140,150	140,150	0	
収入計	1,916,250	1,918,154	1,904	

## 支出の部

(単位：円)

項目	予算額	決算額	差引額	備考
会議費	300,000	339,898	39,898	
総会費	200,000	287,166	87,166	資料、講師料他
役員会費	100,000	52,732	-47,268	役員会3回
事業費	1,160,000	1,108,453	-51,547	
研究調査費	600,000	549,438	-50,562	各種調査研究
専門委員会費		0	0	〃 打合せなど
研究集会費	100,000	70,375	-29,625	発表集会抄録、会場費ほか
会誌発行費	400,000	354,240	-45,760	
編集委員会費		0	0	
通信費	30,000	74,400	44,400	
消耗品費	30,000	60,000	30,000	
備品・什器		0	0	
旅費交通費	200,000	222,940	22,940	
旅費交通費	200,000	222,940	22,940	日本農村医学会・参加費など
雑費	250,000	121,092	-128,908	
雑費	250,000	121,092	-128,908	第22期役員特別負担金
予備費	6,250	0	-6,250	
予備費	6,250	0	-6,250	
支出計	1,916,250	1,792,383	-123,867	
次期繰越金	0	125,771	125,771	

財 産 目 録  
(令和02年3月31日現在)

(単位：円)

内 訳	金 額	備 考
預 金	125,771円	
計	125,771円	

監 事 の 意 見 書

令和02年5月 日に会長理事から提出された第1年度の事業報告書、財産目録、収支決算書の各事項について監査致しました。その結果、以上の内容は適正なものと認めます。

令和02年 5月 日

富 山 県 農 村 医 学 研 究 会

監 事 高 木 茂 印

監 事 橋 本 直 輝 印



## 令和02年度事業計画（案）

### I. 事業方針

富山県内の農山漁村におけるすべての健康問題を調査研究し、明るく健康な村づくりに寄与する。

特に、農薬中毒や農業災害、職業性疾患等農業医学的分野及び、農村環境や農村生活に起因する農村医学的分野について調査研究を行う。さらに、命を育む農業を営む事の精神的、社会的、文化的意義を明らかにし、心豊かな農村づくりに寄与する。

### II. 事業計画概要

1. 農村の職業性疾患の調査研究
  - ・農村の地域環境並びに農作業の特殊性に起因する健康障害の調査研究
2. 農業災害の調査研究
  - ・農業機械の健康に及ぼす影響についての調査研究、特に騒音及び振動の影響に関する 調査研究
  - ・農業機械及び農業機械以外による農業災害事故調査研究
3. 農薬の生体に及ぼす影響に関する調査研究
  - ・農薬中毒の実態調査
  - ・農薬の生体に対する急性及び慢性的影響に関する調査研究
  - ・農薬の生体残留に関する調査研究
4. 健康管理に関する調査研究
  - ・農業従事者の健康状態の把握と保健指導
  - ・農業従事者の健康管理に関する調査研究
  - ・農業従事者の生活習慣病の実態調査とその対策に関する調査研究
5. 農村における社会医学的研究
  - ・農村における高齢者に関する調査研究
  - ・社会変動による農業従事者の生活・健康に及ぼす影響についての調査研究
  - ・都市近郊農村における社会医学的研究
  - ・農村における食生活の変化と健康影響に関する調査研究
6. 農村における特殊疾患の調査研究
  - ・伝染病、風土病等の地域多発疾患の疫学的調査研究
7. 農村における環境汚染およびその変化と健康影響に関する調査研究
8. 乳幼児並びに学童の健康調査研究
9. 農村の健康会議、健康教室等の実施
10. 研究会誌並びに必要な印刷物の発行
11. 研究集会の参加及び開催
12. その他目的達成に必要な事項

### III. 主な事業計画

#### 1. 主な調査研究

- (1) 農業災害に関する調査研究
  - ①富山県における農業災害事故調査
  - ②農業災害事故のケーススタディ
  - ③高齢者の農作業安全に関わる調査研究
- (2) 農薬中毒に関する調査研究

- ①農薬散布者の健康調査
- ②有機リン剤の体内残留に関する調査研究
- (3) 農村におけるアレルギー疾患に関する調査研究
  - ①農村地区における花粉症に関する調査研究
  - ②農村住民のアレルギー疾患に関する調査研究
- (4) 農作業及び農作業環境と健康障害に関する調査研究
  - ①各種農作業における作業環境及び労働負荷に関する調査研究
- (5) 農山村における騒音と聴力障害などに関する調査研究
  - ①農業機械の騒音分析及び作業中騒音暴露量の測定
- (6) 農村環境の変化と健康影響に関する調査研究
  - ①農村における熱中症など温暖化影響に関する調査研究
  - ②農村における自然エネルギーの実態と利用の将来的可能性に関する調査
- (7) 農村における生活習慣と健康に関する調査研究
  - ①食生活と健康に関する調査研究
  - ②農村生活の変化と健康障害に関する調査研究
  - ③農村におけるメタボリックシンドロームの実態とその対策
- (8) 農村におけるプライマリーヘルスケアに関する調査研究
  - ①農村における健康管理運動に関する調査研究
  - ②農村検診における各種疾患の要因分析に関する調査研究
- (9) 農村における高齢者問題に関する調査研究
  - ①農村高齢者の生きがい因子の解析に関する調査研究
  - ②農村高齢者の農作業と骨密度の関連に関する調査研究
  - ③農村における介護および認知症等に関する調査研究
- (10) その他、農山漁村における各種健康・保健調査の実施

## 2. 各種研究集会参加・交流並びに開催

- (1) 第38回富山県農村医学研究及び健康管理福祉活動発表集会の開催  
令和3年3月6日(土)、厚生連高岡病院地域研修センター I
- (2) 第69回日本農村医学会お  
開催日時：令和1年10月15日、16日  
開催場所：愛知県名古屋市

## 3. 会誌等の印刷物の発刊

- ①会誌の発刊
- ②農村医学に関する啓蒙資料の作成
- ③その他

## 4. その他目的達成に必要な事業

# 令和 2 年 度 収 支 予 算 書

(自令和02年04月01日～令和03年03月31日)

## 収入の部

(単位：円)

項 目	前年度	予算額	備 考
会 費 収 入	306,000	306,000	
会 費	306,000	306,000	306人×1,000円
特別負担金	1,470,000	1,470,000	
特 別 負 担 金	870,000	870,000	870,000円(厚生連)
調査研究協力費	600,000	600,000	厚生連より繰入
雑 収 入	100	100	
雑 収 入	100	100	利息など
前期繰越金	140,150	125,771	
収 入 計	1,916,250	1,901,871	

## 支出の部

(単位：円)

項 目	前年度	予算額	備 考
会 議 費	300,000	400,000	
総 会 費	200,000	300,000	資料、会場費、講師料他
役 員 会 費	100,000	100,000	役員会3回
事 業 費	1,160,000	1,280,000	
研 究 調 査 費	600,000	600,000	各種調査研究
専 門 委 員 会 費	0		〃 打合せなど
研 究 集 会 費	100,000	100,000	発表集会抄録、会場費ほか
会 誌 発 行 費	400,000	400,000	
編 集 委 員 会 費	0		
通 信 費	30,000	100,000	健康管理センター60,000
消 耗 品 費	30,000	80,000	健康管理センター60,000
備 品 ・ 什 器	0		
旅費交通費	200,000	200,000	
旅 費 交 通 費	200,000	200,000	日本農村医学会・参加費
雑 費	250,000	10,100	
雑 費	250,000	10,100	
予 備 費	6,250	11,771	
予 備 費	6,250	11,771	
支 出 計	1,916,250	1,901,871	
次期繰越金	0	0	

役員名簿

富山県農村医学研究会役員名簿

R2.7.1

理 事	役	職
鏡 森 定 信	富山産業保健総合支援センター	所長
大 島 晃	県農業技術課	課長
安 藤 満	元富山国際大学	教授
寺 西 秀 豊	元富山大学医学部公衆衛生学教室	准教授
酒 井 富 夫	国立大学法人富山大学学術研究部社会科学系	教授
中 崎 美 峰 子	富山県衛生研究所	副主幹研究員
亀 谷 富 夫	厚生連高岡健康管理センター	所長
寺 田 光 宏	厚生連高岡病院	院長
小 栗 光	厚生連滑川病院	院長
大 岩 満	富山県農協中央会農業対策部	部長
堀 田 和 豊	全農富山県本部生活燃料部	部長
西 川 藤 樹	富山県厚生連	代表理事 理事長
大 浦 栄 次	富山県厚生連	健康福祉アドバイザー
谷 井 悦 子	富山県農協女性組織協議会	会長
寺 西 雅 典	富山県農協青年組織協議会	会長
川 西 久 美 子	富山県高岡地区生活指導員協議会	会長
監 事	役	職
橋 本 直 輝	厚生連滑川病院	副院長
高 木 茂	富山県厚生連	常務理事

顧 問	役	職
石 田 礼 二	富山市民病院	名誉院長
加 須 屋 実	富山大学	名誉教授
寺 中 正 昭	寺中クリニック	院長
菊 池 誠	金沢西病院	理事長
熊 谷 武 夫	元高岡市保健センター	所長
小 川 忠 邦	元老健施設みしま野苑一穂	施設長

事務局長

吉 田 稔 富山県厚生連健康福祉課付審査役

理事

就任	厚生連高岡病院	院長	寺田 光宏
	富山県農協中央会農業対策部	部長	大岩 満
	富山県農協青年組織協議会	会長	寺西 雅典
退任	厚生連高岡病院	院長	北川 清秀
	富山県農協中央会農業対策部	部長	山本 康雄
	富山県農協青年組織協議会	会長	高木 謙太郎